

令和7年度山形県立最上学園虐待防止委員会（概要）

○ 第三者の参画による、児童の安全安心を守る仕組みの導入

1. 最上学園虐待防止委員会の設置運営について

- ・令和2年の虐待事案を受け、第三者委員の参画による児童の安全安心を守る仕組みとして虐待防止委員会が設置された。
- ・令和4年度「社会福祉士」資格の外部委員を迎え、強化した委員会体制を継続。
- ・前回の委員会開催以降、要綱第2（3）による「委員会を直ちに招集してその対処に対し指示、指導を仰ぐべき不適切支援の事案」は、発生していない。

2. 公認心理師による入所児童の心理的ケア実施状況

- ・本事業は入所児童への心のケアや合理的配慮、技術的支援に関して、公認心理師から助言を受け、支援に活かす機会としている。
- ・虐待案件の対象児を含め、面談を受けた児童全員が精神的に落ち着き、安定した生活を送ることができているとの評価を得ている。
- ・来年度も継続し、成長と共に変化する児童の心理状況に合わせた支援力の向上、より児童の気持ちに寄り添った支援に今後も繋げていきたい。

○ 危機管理（虐待防止）体制の整備（職員の意識改革の取り組み含む）

3. 最上学園 児童支援における虐待防止宣誓書

- ・年度途中から採用された職員も含め、全職員が内容を理解して宣誓書に署名し、支援に入っている。

4 - 1. 児童虐待防止マニュアルの見直し状況について

- ・分かりやすく、より良いマニュアルとなるよう、マニュアルの見直しを実施。
- ・マニュアルを活用した虐待防止研修会を実施している。

4 - 2. 身体拘束等行動制限の適正化の取り組みについて

- ・「適正化指針」に従い、所要の取り組みを継続して実施。
- ・行動制限実施後は改善策や代替案を検討するようにし、行動制限せずに済むようなより良い支援につなげていけるように改善を繰り返している。

4 - 3. 身体拘束等行動制限の実施状況について

(略)

5. 児童支援におけるセルフチェックについて

- ・日々のセルフチェックと、その結果を踏まえたグループでの振り返りを定期的に行うことを通じて、各職員が支援の現状に関し「気づき」や課題を見出し、改善策の検討やより良い支援について考える機会としており、来年度も継続していきたい。

6. 倫理アンケートについて

- ・虐待防止への意識を高めることや職員同士で支援の在り方を議論するきっかけとして機能している。
- ・集計結果は全職員に報告。虐待防止園内研修の内容とも掛け合わせて支援の質の向上が図られるとともに、職場内の風通しのよさにもつながっている。
- ・日々のセルフチェックに加え、年1回の倫理アンケートを実施することで、組織としての課題を共有し、虐待防止の意識を高く保ち続けていきたい。

7. インシデント・ヒヤリハット報告について

- ・目の届かない場面での虐待防止と、児童が危険に及ぶ前の気づきに繋がるように、職員間の情報共有を図っている。
- ・昨年度に引き続き、報告事案について職員に速やかに周知するとともに、原因分析に努め、以後の対応策を考え、講じてきている。
- ・療育部門全体に関わり繰り返し起きている案件については、児童支援検討委員を中心に検証し、対応策を考えて改善を図っている。

○ 風通しの良い組織運営の確保

8. 気づき、直ぐ改善活動について

- ・昨年度に引き続き、この取組みに従った不適切支援事案の報告はなかった。
- ・職員の意識の変化や、相互の声がけ等を通じ、不適切支援が払拭されてきた結果と評価したい。
- ・日頃から上席職員を中心に話しやすい雰囲気や、報告がしやすい仕組み作りに努めている。

9. 実習生からの意見等について

- ・当園で実習を行った実習生より、不適切支援再発防止の観点から、通常の実習記録とは別に実習終了時に意見をもらっている。
- ・「良くない支援と感じた場面」への意見が1件あり、職員間で共有し反省するとともに、今後の改善に努めている。

○ 職員に対する虐待防止研修の見直し（支援力向上の取組み含む）

10 - 1. 虐待防止関連の園内研修について

- ・今年度も虐待防止の専門家を招き、職員の支援力向上のため研修を実施
- ・身体拘束による児童の心の痛み、児童を不安・不穏にさせない関わり方などを深く学び、考えるとともに、日々の支援における迷いや困り感について専門家の視点から助言を受ける機会となっている。
- ・来年度も、より良い支援に向けて園内研修を継続していきたい。

10 - 2. 学園職員が受講した研修内容について (略)

11. 支援のポイント事例集について

- ・園内での情報共有会の結果や、支援事例を踏まえながら、各児童の成長や最近の動静に即して随時事例集の見直しを行い、日常の支援での参考としている。
- ・情報共有会を通してはっきりとした答えが出なくとも、他者の支援の方法を知り、自分の手法に取り入れより良い支援につながるきっかけとしている。

○ その他

12. 虐待相談窓口について (略)